



第 117 号

東稲ニュース

早稲田大学校友会東久留米稲門会

令和 3 年 5 月 10 日発行
発行責任者 高橋 哲男
編集責任者 片平 るみ
E-mail:bente-takahashi@jcom.home.ne.jp
http://higashikurume-toumonkai.com/
事務局 大矢 真弘 Tel042-475-8532

第 27 回定時総会中止と書面審議の実施について

東久留米稲門会 会長 高橋 哲男

会員の皆様、日頃東久留米稲門会をご支援、ご協力いただきましてありがとうございます。第 27 回定時総会だけは開催したい強い思いで、5 月 23 日に延期することをご案内し、準備を進めて参りました。しかし今般の東京都に新型コロナウイルス特別措置法に基づくまん延防止等重点措置が適用され、東久留米市は適用外の地域ですが、適用地域より飲食関係の人の流入等ある面では適用地域より感染のリスクが高くなる懸念があること三多摩支部各会は 5 月の総会を中止としていること及び早稲田大学校友会からも 5 月まで総会自粛の要請もあることから、決定が遅くなり申し訳ありませんが、会員の安全を確保するために、第 27 回定時総会は中止として昨年と同様に書面審議を実施させていただきます。

本年度の書面審議の主な事項は以下の通りです。

1. 2020 年度収支決算書で、東稲ニュース 1 月号でご案内致しました本年度の繰越金 954,717 円につきましては、500,000 円を 3 年後の 2024 年に開催予定の 30 周年行事積立金に繰り入れました。
2. 2021 年度事業計画及び 2021 年度収支計画については、次のことが特筆することです。
 - (1) 現在の会員数は 134 名でピーク (168 名) 比△34 名になることから、本年度は従来の会員募集だけでなく会員募集プロジェクトチームを設立し会員を募集します。
 - (2) ホームページの改修については、サーバーが原因で昨年来取り組んで参りましたが、1~2 ヶ月後に完成する予定です。見やすく使い易いものになると思います。
3. 2021 年度は、役員改選年度であります。現役員でコロナ禍を乗り越え、通常の稲門活動を始めたので病気や家庭事情の役員以外は、留任を依頼しました。退任 3 名の役員につきましては、お礼を申し上げます。これまでの慣例によれば会長職は 2 期であり、また諸先輩の会長に比し微力であることから交替する時期となっておりますが、役員に慰留を依頼したこともあり、緊急事態であることから継続することに責務を感じました。
4. 長年稲門会の会員だった方がご逝去され死亡を知ったのが 3 ヶ月を経過したことや偶々当年度の会費が納入できなかった会員が逝去された場合、現在の弔意規定で対応できないことがありました。これを改善するために弔意規定を変更するものです。

さて、本年度マグカップ贈呈の対象者は、1962 (昭和 37) 年ご卒業の福田稔様、佐藤雄二様、比護喜一郎様、長瀬邦子様 の 4 名の会員です。お祝い申し上げます。後日、執行部より記念品をお届けする予定です。また、コロナ禍の中で会員募集のためポストマンを務めていただいた会員に日頃の活動を含めてお礼を申し上げます。おかげで 3 月に 2 名の校友が入会いたしました。稲門祭については開催する方針ですが準備は遅れています。稲門祭グッズ販売の依頼がありましたら、宜しくご協力お願いします。スポーツ関係部への寄付は、ソフトボール部を予定しています。東久留米稲門会の行事としては早く行事を再開したいのですが、ワクチン接種が終了していれば、秋の懇親会を早めに開催したいと思っております。最後に新型コロナウイルス感染の終息は見えない状況ですので会員皆様のご健康につきましては呉々もご留意お願い申し上げます。

会の告知板

【部会予定】

- 5月10日(月) ウォーキング&山歩き 中止 「高山不動と関八州見晴台」 9:15 東久留米駅集合
 5月23日(日) 第27回定期総会 中止 14:00 成美教育文化会館
 6月6日(日) 令和3年度第1回役員会 16:00 生涯学習センター
 ※5月27日(木)に予定されていた映画鑑賞会「第67回鉄道員」は9月30日に延期予定
 ※5月29日(土)に予定されていた野球早慶戦観戦はコロナ禍のため呼びかけは中止

<各部会定例活動一覧> ※コロナ禍により変更の可能性があります。

部会	5月				6月			
	日	曜	時間	場所	日	曜	時間	場所
女性サークル				中止	10	木	10:00~12:00	中央町地区センター
書道	9	日		中止	13	日	13:00~	生涯学習センター
俳句	16	日	10:00~12:00	生涯学習センター	20	日	10:00~12:00	生涯学習センター
囲碁	23	日	13:00~	成美教育文化会館	27	日	13:00~	成美教育文化会館
太極拳	15	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	12	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	22	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	19	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	29	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	26	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
バドミントン	毎週金		10:50~	東久留米スポーツセンター	毎週金		10:50~	東久留米スポーツセンター

【大学・校友会関係】

- 4月7日(水) 東京三多摩支部主幹引継会議 Zoom 会議
 4月9日(金) 稲門祭実行委員会 メール配信に変更
 ※新型コロナウイルス感染防止のため、すべて中止となっている。

会の報告

◎春季代議員会の報告（書面審議）

3月13日(土)に大隈講堂で開催予定であった校友会春季代議員会は、コロナ禍により今年も中止となり、書面による持ち回り審議となりました。協議事項は①2020年度活動報告および決算予想の件、②2021年度活動計画および予算編成の件、③推薦校友候補者承認の件の3件、報告事項として①賛助代議員名称贈呈について、②代議員・支部長等異動について、③2020稲門祭決算について、④WASEDA'S Health Study 登録状況について、⑤募金関係の報告とお願い、の5件が資料としてメール配信されました。特に反対する理由もなく、協議事項すべてに賛成の旨申請フォームにより投票し、3月17日にすべての協議事項が多数決により承認された旨、校友会事務局よりメールによる報告がありました。

決算予想によると、校友会の収入合計は約7億2,405万円となり予算比で700万円程下回ったものの、行事がほぼすべて中止となり、支出もほとんどの科目で予算額を下回るため、奨学金を1,000万円増額。支出合計は約6億7,609万円となる見込みとのこと。また2020年度は収支差額が約4,796万円となる見込みのため、WASEDA サポーターズ倶楽部へ1,000万円の寄付を予定するそうです。

小山田 朋樹 記

◎臨時役員会報告（議事録概要）

高橋会長から開会の挨拶の後、第27回定時総会開催の可否はコロナの状況を見るため、4月20日

(火) まで先送りしたい旨、意見が出され、了承された。また、講演会についても参加者数が少ないことを勘案し、次年度に再延期することとした。

1. 第27回定時総会について(成美教育文化会館、ギャラリー) ※後日今年度は中止と決定した。

*開催する場合、以下のように実施することが決定された。

(1) 定時総会 14:00~14:40 司会 小山田副会長 議長 高橋会長

(2) 定時総会などの準備

①総会資料印刷及び袋詰め作業 <大矢事務局長>

②役割分担

- ・会場準備 定時総会、責任者は小野副会長、大矢事務局長
- ・受付(受付名簿一大矢) ・名札 小山田、大矢 ・校旗 大矢 ・看板 大矢 <掲示板のみとする> ・写真 清水・小山田

③当日役員集合時間 13時00分

(3) 事業計画、予算案等について

①事業報告・決算について…原案通り、承認。

②事業計画・予算案

- ・実行計画に「会員募集プロジェクトチームを設立する」を追加。
- ・予算案の総会費から講演謝礼を削除。
- ・一般校友への案内はポストマンではなく郵送に変更することに伴い、通信費を増額した。

③会員募集プロジェクトチーム設立の件

- ・責任者を小野副会長とする。

(4) 次年度総会日程について

2022年4月23日(土)もしくは5月21日(土)とし、会場の成美教育文化会館の予約状況を確認する。

2. 幹事長・事務局長会議・代議員会の報告 <3/13(土)>

中止となり、書面審議となった。

3. 組織強化補助金について

昨年度実施せず。本年度は継続する(予定)ので申請をする。寄付する部は「ソフトボール部」とする。2022年度は「ボクシング部」の予定。

4. 広報関係

(1) 東稲ニュース 編集案概要と原稿執筆依頼

担当の片平委員より資料に基づき説明があり、承認された。

(2) HPについて

大矢事務局長より、HPのテスト版確認等の日程が遅くなっているが、後日役員の皆さんに送るとの説明があった。

5. その他

(1) 近隣稲門会等について(予定)

稲門祭実行委員会 (未定)

三田会総会 (未定)

三多摩支部引継会議 4/7(水) Zoomにて会議

清瀬稲門会 5/29(土) 清瀬アミューズ 中止(書面審議)

西東京稲門会 6/20(日) 東伏見キャンパス

三多摩会長会 8/21(土) 八王子市学園都市センター、懇親会無し

秋季代議員会 9/25(土) 早稲田大学

小平稲門会 10/16(土) ルネ小平

三多摩支部大会	10/17 (日)	京王プラザ八王子
早大稲門祭	10/24 (日)	早稲田大学
東村山稲門会	(未定)	
合同会長懇話会	(未定)	
春季代議員会	3/12 (土)	早稲田大学

(2) 映画鑑賞会について

5/28 (木)「鉄道員」は、9/30 (木) に延期とする。

(3) 家族会員規定の変更について

各部会長とも相談し、再検討することとした。

(4) 弔意規定について

現状を勘案し、以下のように変更することを総会に諮ることとした。

1 規定

- ②葬儀終了後、会員の死亡を知った場合は、3ヶ月以内に限り、
『早稲田大学東久留米稲門会 名』にて生花に代えて香典
(10,000 円)をおくる。

< 3ヶ月以内 → 6ヶ月以内 に変更 >

2 資格

- ① 当年度会費を納入している会員とする。

< 当年度会費 → 前年度会費 に変更 >



大矢 真弘 記

◎東京三多摩支部主幹引継ぎ

2021年4月7日(水)17時30分より東京三多摩支部の引継会議をZoomにて行った。出席者は2020年度の主幹である東久留米(高橋・有賀・大矢)、東村山(大内)、2021年度の主幹である八王子(加瀬・山部)、日野(京極・宮本)の8名であった。定例の引き継ぎ内容である2020年度の活動報告、決算案並びに2021年度の各稲門会の総会日程の報告の後、以前からの課題であったブロック会議の開催、支部長複数年制並びに三多摩支部役員について意見を交換したが、結論は出ず、引き続き検討することとした。

大矢 真弘 記

部会だより【活動報告】

<ウォーキング & 山歩き部会>

部会活動報告：黒目川を遡上しての桜の花見ウォーキング (R3.3.22 実施)

我が国最初の歌集万葉集(750年頃)では桜の歌の数は第8位に過ぎないそうである。これより150年後の古今集(905年)により、我が国の桜の文化が創造されたと言われる。当時は山桜で、今日のソメイヨシノとは多少異なる風景であったかもしれないが、そこでの人々の心情は、1000年を超えても変わらないと思っている。在原業平の名歌「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」は今も新鮮に迫ってくる。古今集では散る桜の美に眼が向けられたとも言われるが、現代の凡人としては、やはり満開の桜を求め、西行の「ねがはくは花の下にて春死なむそのきさらぎのもち月の頃」に惹かれるのである。その点において、今回のウォーキングは満開には少し早かったのが心残りである。

昨年の花見ウォーキングはコロナウイルス猖獗により中止せざるを得なかった。今年も緊急事態宣言の動向に気を揉んでいたが、21日に解除となり翌22日に辛うじて開催に漕ぎ着けた。晴れの天気予報が外れて(いつものことだが)残念な曇り空の下、16名*(男11,女5)の参加を得て神山大橋からスタート。(*後で2名加わる)この日は東京の桜の満開報道が夜になされていたが、神山大橋では、道路を挟んだ両側の各

4～5本の大きな桜の樹が満開で我々を迎えてくれた他は、以後の行く先々の開花状況はマチマチであった。

巖島神社前の通りの桜は7分咲、神社内の1本は満開であったが曇天に映えず、これを素通りしてしまう方々も。歩を進め、学芸大附属特別支援学校では、金網越しに満開に近い桜を観て進む。満開の樹を下から見上げたいのに校内には入れない！西武線のガードを潜り、大円寺に至り、6分咲の桜を観て修復中の本堂に拝殿。進んで、黒目川水辺公園（坂本橋付近）でほぼ満開の桜に迎えられて休憩。

その後、小金井街道を挟んでの久留米中学、久留米西高辺りは殆ど咲いておらず素通りし、更に1km以上を歩き、しんやま親水広場で、漸く本日のメインイベントとなる満開の桜を満喫した。600mを超える小川の岸边は咲き誇る桜で満ち満ちた桃源郷というのは過言であろうか。しかしながら、花見の宴会を控えるべき立て札が何と恨めしく思えたことであったか。「酒なくて何の己が桜かな」（江戸、滑稽本）の心境。

枝の隙間が広く、まばらな感じが否めない滝山団地の桜のトンネルを通り、最終地白山公園に到着。7分程度には咲いていたが、曇り空の為に華やかな雰囲気欠ける桜の樹々の下で、三々五々昼食の筈を広げた。

「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは……」との兼好法師のご託宣があるものの、やはり、青空からの陽光を浴びて満開の桜を愛でる方が良かったナ！……負け惜しみです。

東海 俊孝 記



<ゴルフ部会>

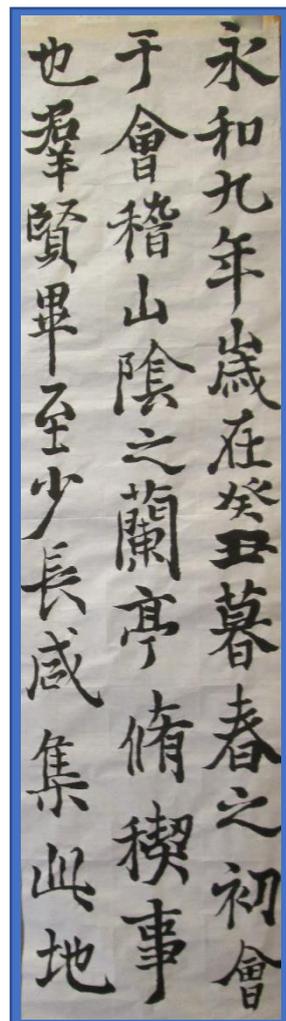
春の稲門会コンペは延期、三田会とのコンペ中止になりました。

部会長 金子 孝司 記



<書道部会>

安次峰さんが王羲之の最高の傑作、蘭亭序 324 字を見事に臨書され披露されました!!



上記の書作品は安次峰さんが渾身の力を込めて一年がかりで王羲之の最高傑作「蘭亭序」を臨書された労作です。王羲之は(304~361)中国が生んだ書の天才、書の神様と呼ばれ中国書道史上最要人物。蘭亭序とは：永和9年(353)王羲之が名士41人を別荘に招いて蘭亭にて曲水の宴(詩会)を開きその時の詩集の序文 324 字を王羲之が書いたもの。今から約 1700 年前(日本は古墳時代)、王羲之は楷書、行書、草書等書の芸術性を確固たらしめた普遍的存在で後世の書道界への影響は絶大。

左の書は上の写真の最初の1枚 35 字です。半切(横 35 センチ×縦 135 センチ)

読み：永和九年歳は癸丑(きちゆう)に在り暮春の初め會稽山陰の蘭亭に會し禊事(けいじ)を脩する。群賢(ぐんけん)畢(ことごと)く至り少長咸集まる。

書評等：書の良し悪しはともあれ文句なしの超努力賞です、蘭亭序は古今無比の名品として誰もが習い数多ある展覧会には必ずと言ってよいぐらい蘭亭序の臨書が展示されます、とは言っても安次峰さんのように 324 字を臨書した超大作は見たことはありません、如何に安次峰さんが奮闘努力されたかが一目瞭然です。書歴4年のキャリアにしては大した仕業です。皆様ご存知の如くあのスマートな身体で何と剣道七段、剣士としては最高の地位、書道で言えばプロの書道家的存在。聞けば365日欠かさず毎朝6時~8時約15kmの市街散歩とか、!! 超アスリートの離れ業です。その強靱な精神力、忍耐力を基盤としながらバドミントン、ウォーキング、山歩き、はたまた、カラオケ(レパートリー広く美声)等々、そしてこよなく酒を愛し、飲むほどに饒舌、朗らかに人生を語られる愉快な人柄です。そんな安次峰さんを書道部に、と、ある日、渡辺さんが連行されました。私はビックリするやら嬉しいやら些か複雑な印象でした。大丈夫かな、長続きするのかな、と杞憂しましたが実に素直に書に取り組みられ今や書道部員の範となつて真摯に書に向き合っておられます。

左の書は1点1画、1字1字を疎かにせず手本に忠実に正しく美しく書きたい想いを秘めて超努力された安次峰さんの心意気が見られます。この調子で他の8枚 289 字も更に華麗に臨書して下さい。(臨書とは古典の書を手本にして書くこと)

武藤 豊 記(号：豊翠)

<俳句部会>

第 247 回 3 月 21 日(日)

兼題：春の月 あたたか 他当季雑詠 1 句

<高点句>

すべり台待つ子に桜吹雪かな 片平るみ
遠き日の狐ばなしや春の月 杉本達夫

<自選一句>

あたたかや中身知らずのむすび 2 個 川島知子
潮だまりぬくき光にカニ遊ぶ 横田慧子
電話の母お国訛りの暖かき 馬場清彦
独り居や酒を友とし黄水仙 比護喜一郎
あたたかや川沿いの道歩む母 三浦洋子
弁財天唇紅く水温む 大久保泰司
三・一・一にも差し伸べられぬ吾 橘優治

第 248 回 4 月 18 日(日)

兼題：花筏 蝶 他当季雑詠 1 句

<高点句>

黒塀に沿って流るる花筏 比護喜一郎

<自選一句>

黄の蝶や何かよきことありさふな 川島知子
白蝶の光の使者となってをり 片平るみ
黒犬のすみれを嗅いで過ぎにけり 杉本達夫
舞い踊る君とボートと花筏 三浦洋子
花筏どこまでゆられて行くのやら 横田慧子
海に出よ竜宮城へ花筏 馬場清彦
少年の二墨打うれし春の雲 橘優治
菜の花やしあわせそうな村の女 (ひと) 大久保泰司

片平るみ 記

<太極拳>

「太極拳のすゝめ」

本部会は 2001 年(平成 13 年) 9 月 14 名で発足し今年で 20 周年を迎えました。小生は翌年入部し中国への研修旅行にも参加しました。公園には多数の地元民が皆真剣に太極拳を演じておりびっくり、我々にも手取り足取り親切な指導に与り本場の太極拳を経験しました。爾来春秋には野外稽古の楽しみなど参加してきましたが、ようよう太極拳のゆったりとしたゆっくりとした滑らかな動きを楽しめるような気になりなるべく休まないで出かけるようにしております。



いつもご夫妻で太極拳の稽古

小生の思いは太極拳を通して **“健康で長生き(現 84 歳)”** です。比較的高齢な稲門会々員の皆様、ご家族の皆様には誰もが無理なく安心して参加するに相応しい部会だと思っております。又当会々員を問いません、友人知人の皆様の参加も期待しております。

太極拳には次の 3 つの効果が期待できると自分流に言い聞かせています。

- 心の調和

太極拳は動く禅と言われ ストレス解消 焦らない 集中力 穏やかな睡眠

- ゆっくりした呼吸

1 分間の望ましい呼吸数は座禅と同じ 4 回

- 身体を整える

特に腰部分と下肢の筋を鍛え 高齢になっても立ち歩きがしっかり出来る

足膝関節の痛みの解消 バランス感覚改善 転倒防止

この一年のコロナ騒動で、成美教育文化会館での花見しながらの練習が途絶え残念です。

松崎 博 記

部会だより【今後の予定】

<ウォーキング & 山歩き部会>

- 1) 高山不動と関八州見晴台を巡るハイキングと山躰躑の花見（第80回：5月10日）：中止しました。

中止理由：都知事による県を越えての移動自粛要請が、東京都全域を対象に出されている。高山不動は、県を越えての移動になること、及び23日に予定された稲門会定時総会が中止された状況に鑑み、稲門会のオフィシャル行事としては中止せざるを得ないと判断しました。*その後非常事態宣言発令

- 2) 代替案

ウォーキングの中止は忍びないとの声が多い場合は、(コロナの状況次第ですが)12日の非常事態宣言が開けた後の17日(月)に東久留米周辺のウォーキングを企画しています。(例：平林寺、東久留米と田無辺り)

実施の場合はメールで連絡します。尚、ご要望があればお知らせ下さい。

- 3) その後の予定

6月7日(月) or 14日(月) 小岩菖蒲園(開園していれば)、鎌倉長谷寺の紫陽花を検討しています。

★実施要領はメール(or Fax)でお知らせします。参加実績のない方はアドレスやFaxの登録がありませんので、参加ご希望の場合は、以下宛にメールアドレス or/& Fax 番号をご通知下さい。

連絡先：東海俊孝 (e-mail) toshi-tokai@kv.j.biglobe.ne.jp Fax & Tel : 473-8566

別処尚志 (e-mail) t_bessyo@jcom.zaq.ne.jp Tel: 475-1710

部会長 東海 俊孝 記

<野球早慶戦観戦部会>

春季の早慶戦は5月29・30日の予定ですが、コロナ禍収束の気配がなく、通常の観戦が出来そうもないので、観戦を取り止めます。リーグ戦は4月10日に観客数上限1万人(飲酒解禁)で開幕し、私も初戦(対東大)を観戦しましたが、その後コロナまん延で観客数半減措置が為されてしまいました。各チーム力が拮抗し面白いシーズンになる期待がありますが、如何せんコロナの状況好転しません。六大学野球公式サイト「BIG6.TV」で全試合ライブ動画配信されますので、関心のある方はご覧下さい。

山口 謙二 記

特別企画

安宅初代会長追悼特集



2020年12月31日、安宅武一初代会長がお亡くなりになりました。安宅さんは私たちの東久留米稲門会の生みの親ともいえるべき方であり、今私たちが早稲田大学の名のもとに地元で親しく集い、様々な活動を楽しんでいただけるのも、安宅初代会長のお陰です。安宅さんを偲びその功績を称えるため、追悼特集を組むことにいたしました。会の設立時に安宅さんの呼びかけに応じて集まった設立発起人の皆様や歴代会長、共に俳句に親しみまた酒席を共にされた方々に、安宅さんの思い出やエピソードを語っていただきました。創立から26年を経て草創期を知らないメンバーも増えていることから、会の設立時の様子を知る良い機会にもなると思います。

東稲ニュース編集委員会

「安宅初代会長を偲んで」

高橋 哲男(S50年 政経)

私からは、安宅初代会長の早稲田大学、早稲田大学校友会、東久留米稲門会の活動の紹介の中で中間に思い出を語らせていただきます。大学及び校友会については、校友会への問合せと早稲田大学校友会125年小史を参考にしました。

安宅初代会長は、早稲田大学法人役員としては、商議員 1986/6/1～2012/5/31、評議員 1990/7/1～2002/7/1～2002/6/30、名誉評議員 2012/7/13～を担当されていました。

また、早稲田大学校友会は校友会東京都選出本部幹事代議員として 1978/6/1～2000/5/31、常任幹事 1994/6/1～2000/5/31 この期間に 5 つの委員会のうち学報編集委員会、推薦校友選考委員会を担当、残りの 3 つ総務委員会、会計委員会、特別委員会（早稲田カード）は中島宏常任幹事（1994/6 に代表幹事就任）が担当していました。1990/11～1994/11 まで小山宙丸氏が総長（会長）に就任しています。尚、東久留米稲門会設立時には小山宙丸前総長と中島宏校友会代表幹事がご臨席されています。また、中島宏校友会代表幹事は以後 3 年間の総会に來臨されています。その後安宅初代会長は、賛助代議員 2000/10/6～2020/12/31、顧問 2003/2/6～2020/12/31 と務めておりました。大学及び校友会へ安宅初代会長の貢献は校友会代表幹事に匹敵するようなものであったと思われまます。

安次峰前会長は大人数の中でも、安宅初代会長を捜すのが上手で代議員会や商議員会終了後、3 人、時には故榎本先生を含めた 4 人でリーガロイヤルホテルの楠亭で飲食を随席させていただきました。熱燗瓶の日本酒は、特別なものでした。時には楠亭の日本酒がなくなることもありました。話題は旅行の話が多かったと思います。その後高田馬場のカラオケスナックで楽しみました。心が広くお優しい方で自慢話等は全くありませんでした。

東久留米稲門会の活動につきましては、私よりご存じの方が多くと思いますが、振り返ってみます。1995/4 の設立総会の会員は 95 名でしたが、2000/4 迄の任期期間 116 名、145 名、155 名、161 名、166 名と会員数は極めて高く増加しました。安宅初代会長以下役員の方々の努力の結果だと思います。現在においては 134 名とかなり減少しており、今後会員数増強が課題だと思っています。会長在任期間中の部活動についても 1995/6 より散策山歩きの会、女性サークル、ゴルフ部会、俳句部会、囲碁部会の 5 つの部会が活動開始、1996/11 早慶戦観戦、1997/11 書道部会がスタートしています。東久留米稲門会の設立及び基盤のためにも多大な尽力をつくっていただきました。お礼と併せてご冥福をお祈りいたします。

「安宅さんを偲んで」

帆角 信美(S36年 法)

平成 6 年 11 月頃、突然安宅さんから「君の中学時代の級友から紹介された。東久留米市に稲門会をつくりたい。協力してもらえないか」と電話があり、私も第 2 の人生を全く縁のない地元とどうつながりを持っていこうか悩んでいた時だったうえ、安宅さんとは仕事の関係で以前何回かお会いしたこともあったため即座に了解しました。

安宅さんの呼びかけで数十人の発起人が集まり、安宅さんの主導で設立準備が進められ、平成 7 年 4 月 16 日、市商工会館で小山宙丸前総長、稲葉三千男市長ら臨席のもと創立総会が開催され、東久留米稲門会が産声をあげました。初代会長に安宅さんが就任、昭和一桁生まれの先輩諸氏が中心になって次々に事業を立ち上げ、安宅さんの 3 期 6 年の間に現在の稲門会の基盤ができあがりました。私は幹事に就任して事業立ち上げに参画し、安宅さんはじめ先輩諸氏の博学多才に舌を巻き、大いに啓蒙されました。

安宅さんは会長をやめた後も稲門会活動に積極的に参加して会を盛り上げてくれていましたが、最近では参加しても中座されることが多く、気になっていたところに突然訃報が届き、本当にびっくりしました。安宅さんと一緒に創立時から 6 年間一緒に仕事できたことは私の誇りであり、心の支えでもあります。深く感謝するとともに心からご冥福申し上げます。願いが適うのであれば、もう一度、安宅さんがこよなく愛した銘酒「男山」を一緒に飲み、酔うとよく歌っていた「純子」を聞きたいとの思いが

募っています。

「安宅さんを忘れない」

平山 正徑 (S40年 政経)

雪解けや宿の親父の大欠伸 東稲ニュース 5号 平成 14年 (2002)

蝸や夕餉の支度葱きざむ // 8号 平成 14年 (2002)

手作りの味噌が自慢ぞ木の芽和え // 10号 平成 15年 (2003)

臥す妻にレンピを聞いて豆の飯 // 24号 平成 17年 (2005)

一句目は初句、二句目からは如何にも安宅さんらしい暮らしの中から滲み出た句である。

安宅武一さんは1931年1月1日生まれで2020年12月31日に他界されたと聞き及ぶ丸89年間の人生を一日も欠けることなく全うされたことになる。何というケジメの付け方なのだろうかと驚かされました。

私が稲門会に入会した2000年は既に安宅会長から高橋勤会長に替わっていたため、安宅さんの会長時代を知らない。東久留米稲門会が平成7(1995)年4月16日発足であったことからその準備期間を含め発足後の6年間余を安宅さんは正に稲門会の基礎を築いたインキュベーション(孵化)の時代であったと振り返っておられた。安宅さんはこの時期に東久留米稲門会に何としても「品格」というルーツを植え付けたかったのではないだろうか。更に「地域稲門会の役割は良き先輩に出会えることにありそのことに感謝したい」と述べている。蓋し稲門会の至言である。

2010年には早稲田大学創立125周年記念式典に於いて白井総長から校友会常任幹事として長年の功績が認められ校友会功労者賞を受賞されたのを目の当たりにし誇らしく感じたのを覚えている。

小生が会長の任にあった頃、早大商議員会がお開きになると安宅さんは我々に声を掛け大隈庭園に面した「楠亭」に誘われ、月桂冠一合瓶の燗酒を好んで飲んだものである。そのうち上機嫌でほんのり赤ら顔になったジェントルマンは笑顔を見せつつ穏やかにゆっくりと話されたひとつに「東久留米稲門会の活動に地域稲門会の限界を感じながらも成長を感じている」と言われ、更に楽しそうに差し出すお酒を何度も受けてくれた。誰彼隔てなく接してくれるそんな安宅さんを忘れることはない。ご冥福を心よりお祈りいたします。

「安宅初代会長の思い出」

安次峰 暁 (S45年 社学)

安宅元会長が亡くなって5か月、とても寂しいおもいでいっぱいです。

安宅さんは心優しくて親分肌、とても頼りになる方でした。

話を伺っていますと、家事をやりこなしたり、奥様に対する思いやりがヒシヒシと感じられました。

東稲ニュース第109号に載っていた俳句「男あり晩き夕餉の秋刀魚焼く」が忘れられません。

その句についてお話を聞こうと思いつながらとうとう聞くことが出来ませんでした。

大学で1年に2回開催される商議員会には安宅さんと榎本先生は名誉評議員として毎回出席されていました。5～6年ほど前から、会場で会うと、榎本先生が安宅さんと私に「終わったら行くよ」と声を掛けるのが常となりました。その度に安宅さんは苦笑いをしながら「困ったな、どうしようかアジさん・・・」と。結局は、連れ立って、高田馬場の榎本先生の幾つかある馴染みの店で飲みながらのカラオケとなりました。榎本先生はプロ並の喉を披露。一方安宅さんは順番が来ると照れながらも素敵な声で小林旭の「ついて来るかい」、「ごめんね」、「純子」の三曲をいつも歌っていました。安宅さんは、酒は「月桂冠」と決めていて、その店にあると嬉しそうにしておられました。

こんな立派な会の礎を築いて下さった初代会長の安宅さんのご冥福をお祈りいたします。

「安宅武一さんと俳句部会」

杉本 達夫

東久留米稲門会の発会に先立って、滝山商店街の柳寿司の二階で懇談の会が開かれ、地元に住むわたしも参加した。現職の教員であるから、促されて挨拶し、その中に「若き日を酒杯の底に秋闌けて」とかなんとか、思いつきの句を入れた。すると高橋勤さんだったか、句会を作ろうと提唱して、これを機に俳句部会が生まれ、今日に及んでいるのである。

安宅さんは稲門会の初代会長であると同時に、俳句部会発足以来のメンバーだった。思えば部会も歴史が長い。当初は橘雅契さん、次いで太田千雪さんが指導の役割を担われたが、お二人とも他界されて後は、メンバー相互の磨きあいとなっている。いつだったか、わたしは「紫の夜明け師走の鼓動あり」だったかの句を出し、後日、安宅さんがこの句を褒め、「家内も感心していました」と、うれしいことばを追加してくれた。あれから何年たつだろう。わたしはもはや腰が曲がり、失語が進んでいる。

いつだったか、部会は榛名湖へ一泊の吟行に出た。湖畔を歩き、とんがった山頂に立ち、句を詠み、酒を飲み、帰途、榛名神社に立ち寄った。古木に囲まれた社殿の前で、地元の中学生在が画板を膝にスケッチしていた。神社の先の穏やかな坂道をくだる途中、休憩に立ち寄った店で、わたしは安宅さんと並んで座った。一杯飲まないかと安宅さんが誘い、得たりやおうとわたしは応じて、一合カップの冷や酒を飲んだ。もう一杯どうかと安宅さんが言い、望むところとわたしはニコニコした。親の意見と冷や酒は……と言うが、このとき酔った記憶はない。安宅さんは日本酒が好きなのである。このあとも、部会の忘年会などで同席するとき、何度か並んで熱燗を飲んだ。

もう、並んで酒を飲むこともない。あの活力に満ちた姿をみることもない。ただ冥福を祈るしかない。やがてわたしも消えてゆかねばならない。自然の摂理はあらためようがない。 2021. 3. 15.

「上質なワセダマンに捧ぐ」

馬場 清彦 (S28年 法)

安宅氏とは昭和6年(1931年)の早生まれの同期である。揃って浪人なしの昭和28年卒の早稲田OBなのだ。学生の頃キャンパスで逢った記憶はない。東久留米稲門会で初めての出逢いであった。

あれは東久留米稲門会の俳句部会に車でご自宅に迎えに行った折、奥様が本当に愛情たっぷりに付添い心配そうに見送り、正に園児を送り出す母親の様であったことを今でも鮮明に覚えている。奥様にとって急に逝かれてしまい人としての運命とは言えいかに残念であったかと拝察しております。お気落としない様に。一時体調不良で入院され退院後脚が弱ったとかで我々滝山地区俳句部員の仲間で、大久保・比護氏と私の車で廻り道して送迎した折の事でした。その後元気に俳句作りをされていたのに、昨年末急の事で本当に驚きました。ここで私の知っている限りの彼の印象を述べますと、現役の頃はいざ知らず酒が大好きで手品をやり釣りが好き、ユーモアを解する仕事の出来る人物像が自然に浮かびます。明るく愛情あふれる健全な大黒柱であったことが作句からも伺える様だ。

年越しの蕎麦に一族二十人 (健全な大黒柱)

恒例の歳暮に届く金の酒 (世話好き・酒も)

かなかなや川原に一人釣り残る (哲学的)

朝顔を見に近隣の顔そろ (人付き合いの良さ)

男あり晩き夕餉の秋刀魚焼く (学生時代か)

氏が東久留米稲門会長を卒業の会を終わって、新会長とスタッフが充分な敬意を払い別れて行った後、彼も人の子何となく淋しそうな気配を感じ、多分同じ思いの酒好きジャーナリスト國米氏と一緒に付き合い居酒屋へ直行。

本当に彼は酒好きで酒に関する投句が有ると俳句部の誰もが安宅さんの句だろうと思い、しかも当たっていた。特に新走り (新酒のこと) には目がなく、とにかく惜しい正統ワセダマンを早々に亡くした

ものでした。

「花散りてせっかちの友惜しみつつ」 合掌

「温厚洒脱の人」

國米 家巳三 (S31年 政経)

至って温厚な人でした。

「温厚」といえば、通常、そのあとに「篤実」がつづきますが、安宅さんの場合はいささかちがって「洒脱」を加えるのがふさわしいように思います。

「温厚洒脱」——。

当稲門会では俳句を詠み、市民クラブでは手品の妙技を披露していましたね。それになにより酒を愛しました。日本酒党でした。時折、長時間盃をかさねて、深酔いすることもありました。が、乱れたことはありません。大きな声を出したり、荒れた振舞いにおよんで“トラ”になるなど、長年酒席をとものにしたのに、まったく記憶がありません。

稲門会の役員会でも、特別、自説を強調したり、会長然とするところもありませんでした。どちらかといえば口数の少ない寡黙な人で、静かに周囲の声に耳を傾け、それでいてその場に一定の雰囲気をつくってリードする人でした。この人あってわが東久留米稲門会はみごとな船出を実現することができたのです。

安宅さんが早稲田大学の校友会本部の中樞の役を担っていたお陰で、当稲門会会報「杜の西北」の編集は恵まれました。奥島隆康、白井克彦の両総長との対談記事を掲載して紙面を飾ることができたのです。他の稲門会ではなかなかできない企画だろうと思います。また、当稲門会の総会時に催される講演会に、有力な講師を次ぎ次ぎ大学から迎えることができたのは安宅さんの力があずかって大きかったし、22年前、当時マスコミに売れっ子のマークス寿子さんを招いて英国の現代事情を講じていただいたのも安宅さんの口利きが功を奏したものでした。

当稲門会の草創期から青年期にかけて、安宅さんは温厚洒脱のうちに巧まざる力を揮ってその発展を牽引して下さったのです。

「安宅武一さんを偲んで」

菱山 房子 (S32年 文)

コロナで会合も行事も中止となるうちに、こんなに早く安宅さんとお別れの時が来るなんて思いもありませんでした。東久留米稲門会が発足してからもう26年、1995年4月が第一回の総会でした。前年より積極的に準備を進め100名程が学窓を同じにしただけの互いに知己でない校友の集まりでした。そこで初代会長として選出されたのが安宅武一さんでした。安宅さんは先ずこの会の基本方針として3点を挙げられました。第1に当会はサロンのような小さな集まりではなく市民の校友の皆の大きな輪に広げたいこと、第2に大学と密な連絡を取り支援しつつ、猶私達も心の故郷として楽しんで行きたい。第3に現役時代は社会で活躍した日々だが、やがて定年を迎え地域に帰った時、当会は受入組織として皆さんが社会で培ってきた能力をこの地域の文化的活動に役立てる会、そんな会でありたいと話をされました。この3つの基本方針は今も当会の目的そのものと思います。

初めて隣席でお話をした時、教科書にあるが如き礼儀作法で挨拶され、なんて気品のある方と思ったのが初印象でした。そして当会の方々とは初めてでも安心してなんでも話せると、親しく語って下さったのを今も忘れることはありません。当時は当会と政治的なことが混然としているのではないかと危惧されたこともありましたが、安宅さんは実にきっぱりと一切の無関係であるべきことを明確にされました。

さまざまの考え方のある中、中を取り円満な運営をはかり親睦を深めて行ったのは今も実感されます。色々のテーマについて先見性が感じられたのも私の印象です。私は「稲門会に定年はない」とおっしゃ

った意味を改めて思っています。会の行事にはいつも出席され自ら当会の進展に務めておられました。そして会の始めや終りに会の発展と共に常に私達会員の健勝を祈って乾杯の音頭を取って下さった安宅武一さん、そのお声が聞けないまたお目にかかれなと思うと、云い知れぬ寂しさに浸されます。御趣味の俳句の会の方々その場その場ですが、高いご見識と円満なご人格を備えた立派な会長さんでした。今も心から敬愛しております。 合掌 (杜の西北一号一部参照)

「安宅武一さんの思い出」

川上 昇一 (S32年 政経)

桜の季節を待たずに、安宅さんの訃報が届く。ただただ寂しさが身に染みて、数々の思い出が湧き出て来る。

私が初めて安宅さんにお会いしたのは、1994年秋、当地に稲門会設立をと云う、準備の会に参加した時である。翌95年4月、設立総会に於いて、安宅さん初代会長に就任。会は会長を中心に、高橋勤さん、太田さん、國米さんを始め、多くの会員の熱意が実り順調にスタートした。私にとっても、充実した至福の時であった。あれから27年、時の経つのは実に速いものである。

安宅さんとは、早慶戦、ゴルフ、山歩きと多くの行事にご一緒させていただき、いつも雑談には花が咲いたものだ。

過ぎ去った日々を思う時、昭和公園でのバーベキュー会、東海村原子力発電所の見学会、妙義山麓へのバス旅行、初冬の裏磐梯猫魔温泉、早春の甲斐路への一泊旅行等々、皆、元気で、若く、実に楽しくかつ愉快だった。

安宅さんはもういない。

お酒をこよなく愛された安宅さん。役員会の後、よく立ち寄った旧市役所通りの“うどん亭なべきち”は今はない。かつての新年会の会場で、話が盛り上がった“浜波”が最後のお酒の会となったが、追憶と感謝の気持ちで一杯です。

今は、コロナ禍の心配のない天国で心安らかにお休みくださいますよう、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

「安宅さんを偲んで」

比護 喜一郎 (S37年 商)

南沢の安宅家で奥さん手作りの冷たい素麺をご馳走になりながら、安宅さんの東久留米稲門会説立への熱い思いを伺ったのは平成6(1994)年の酷暑の昼下がりだった。日本信託銀行(現三菱UFJ銀行)の要職を務め上げ、当時早大校友会の常任幹事であった安宅さんも自宅ではくつろいだ肌着姿で、発会までには種々クリヤーしなければならないハードルがあると言いながらも実に若々しく、エネルギーに見えた。

私は、当時まだ現役で、あまりお役にはたてないと思いながらも、安宅さんの熱意に絆されて設立発起人の一員に名を連ねることになった。以来、安宅さんとは俳句に、ゴルフに、小旅行に、カラオケにと公私共に親交をいただいた。カラオケでは奥さんの実名を冠した歌謡曲「ジュンコ」を照れくさそうに歌われていたのを思い出す。

グルメで酒好きな安宅さんには酒にまつわる数々の珍事、失敗談も多々ある。思い起こして思わず顔がほころぶ向きも多いに違いない。

安宅さん自らが立ち上げた会報「東稲通信」(現在「東稲ニュース」)や機関誌「杜の西北」の編集で、安宅さん宅に、早稲田校友会に屢々訪れた。安宅さんのお蔭であったのだろう早大関係者の応対も迅速にして心地よいもので東久留米稲門会の一員であることを嬉しくも誇らしく思ったものだ。

几帳面にも、1月1日に生まれ12月31日に亡くなられた銀行マンらしい側面に、ホッとさせる稚気、人間味を感じさせるものが安宅さんにはあった。

安宅先輩に親しさを覚えるがあまり、言わずもがなのこと、失礼なことを記したきらいがある。が、安宅先輩は笑って許してくれると思う。また一人貴重な先輩を亡くした。寂しい限りである。合掌

「安宅さんの思い出」

井坂 宏 (S38 年 理工)

平成 7 年 (1995 年) 4 月 16 日東久留米稲門会は発足した。それに遡ること数か月間は有志が集まって、設立のための準備期間であった。

確か準備会は、最初は旧市役所前のいまは無いが「うどん亭」で行っていたように思う。十数人が集まって規約や体制を話し合った。皆がそれぞれ勝手なことを言い合っただけで、その中で皆の話をじっくりと聞いていて、時々適切な発言をされる方がいて、自分でもこの方は相当な人だなと感じていた。皆もその方には一目置いている様子が伺えたが、その方が安宅さんであった。

そして安宅さんは当然のように東久留米稲門会の初代会長に就かれ、その後 3 期 6 年に亘って会長を務められ東久留米稲門会の基礎を作った。

新しい組織を作るにはいろいろな意見が必要であるが、それらを纏めて一つの方向に導いていく力がなくては新しいものは出来ない。安宅さんはまさにその力となられて東久留米稲門会という素晴らしい組織を作られたのである。

心より安宅さんのご冥福をお祈りします。合掌

「安宅武一さんの思い出」

栄田 征子 (S42 年 文)

安宅さんに最初にお会いしたのは、平成 7 年春、東久留米稲門会設立総会の当日でした。当時安宅さんは、校友会の常任理事をされていて、当市に稲門会を設立することが念願だったと思います。初代の会長として壇上で終始にこやかにご挨拶されていたことを思い出します。

私は安宅さんが会長職にあった 6 年間、5 人の副会長の 1 人としてお世話になりました。安宅さんのご功績は組織作りだと思われまふ。全会員向けの行事、趣味の会、活動報告のニュース作成など、現在の稲門会の基礎作りにご尽力されました。

当時の編集長國米さんが命名された「杜の西北」という東稲ニュースの第一面は、時の人と思われる方々へのインタビューでした。第 5 号に当時の早稲田大学総長の奥島総長へのインタビューに私の順番が回ってきました。

総長の著作や早稲田学報を読み、学内情報誌に目を通して準備を進めておりましたが、きちんとしたインタビューが出来るか心配しながら当日を迎えました。当日は安宅さんと國米さんがご一緒でした。安宅さんは「総長はいっぱい話すから、相づちを打ったり、うなづいたりしていれば大丈夫ですよ」と、私の緊張をほぐしてくださいました。

総長室に通され、しばらくして奥島先生が現われ、少し遅れた理由を話され、雑談もあり、簡単な自己紹介がありました。私が緊張していることを察した安宅さんが、「栄田さんのご主人は文学部の教授です」とお話ししましたら、先生はにこやかに「栄田先生はよく存じ上げております」とおっしゃって下さいましたので、私も思わず笑顔になり、その場が一ぺんに和やかになりました。

安宅さんの思いやりのあるお言葉や的確なアドバイスのおかげで、その後は、実にスムーズにインタビューがなされ、今でも懐かしい思い出となっております。

設立当時、安宅会長と幹事と会員はあちこち行きました。その一つ田無タワーの最上階の展望台が、私の部屋から毎日眺められます。私達は、安宅さんの広い心のおかげで、各々が十分に力を発揮し、そして勉強もさせて頂きました。ここにご冥福をお祈りすると共に心からの感謝を申し上げます。

「安宅さん ありがとうございます」

山岡 恭子 (S53 年 教育)

目を閉じると映画「タイタニック」のラストシーンのように設立当時のメンバーが勢揃いしている。その中央には安宅初代会長。懐かしい設立メンバーの方たちがまぶたに浮かぶ。当時大学校友会では、地域稲門会設立が急務であった。校友会常任幹事の安宅さんは、地元東久留米の稲門会設立を目指し、活動を開始された。志を同じくする発起人の方達は 30 代～60 代で、私は最年少。若き稲門会の船出である。精力的に切り盛りされる幹事長に対して、皆の意見に耳を傾け最後に見事にまとめていかれるのが安宅会長であった。会長と幹事長、名バッテリーと思った。

大先輩の安宅さんは、清廉で心の奥底に輝く湖をたたえているような方だった。女性サークル創設や会報「杜の西北」の編集等で安宅さんにお目にかかる機会は多かったが、中でも印象に残っているのは、代議員会の帰りにみんなで楠亭に行った時のこと。普段は寡黙な安宅さんが、この時はご自身の趣味の山登りのお話、ご家族の事、稲門会の裏話などされ、温かく懐の深いお人柄や見識の高さに触れることができたのを記憶している。安宅さんが亡くなられてとても残念だが、設立の父は今静かに天国から東久留米稲門会を見守って下さっているように感じる。

最後に。「安宅さん、本当にいろいろとありがとうございました。私は東久留米稲門会との思い出を胸に、これからもまた会を大切に生きて行こうと思います。ご冥福を心よりお祈りしております。

東稲広報室

<訃報> 岩崎光身 (S30 商) 2020 年 12 月 5 日 逝去 稲門会より香典

米光慶二郎(S36 文) 2021 年 3 月 16 日 逝去 稲門会より香典

<入会> 大坪隆明 (S60 教育) 弥生町

井上誠司 (S58 法) 本町

<年会費 3,000 円 5 月末までお支払いを>

当会年会費¥3,000 の納入がお済みでない方は 5 月末までに納入してください。納入方法につきましては、部会時に参加している役員にお渡ししていただく方法もあります。また、3 月 10 日発行の東稲ニュースで東久留米稲門会口座への振り込みに方法について記してありますので参考にしてください。

<会員名簿作成にあたり、個人情報非開示希望の確認>

今年度の「会員名簿」の印刷準備を始めます。つきましては、個人情報非開示希望の確認を致します。掲載項目「住所・電話番号・卒業年度/学部」の各情報の中で非開示を希望する項目がある場合は、5 月末までにその旨を事務局までご連絡ください。名簿配付は次号「東稲ニュース」と同時予定です。

<会員リレーエッセイ> ～噴水広場～

長明の晩年は「方丈の庵」私が 4 歳からの庵は「物置小屋」

岡野 幸子 (S40 法)

女性サークル部会での読書は、コロナウィルス感染防止に気を配りつつ、鴨長明「方丈記」を読んできました。鴨長明が「方丈の庵」を造ったのは、54 歳 (1208 年鎌倉時代) の頃、「方丈記」が作品と成ったのは、58 歳 (1212 年)、そして、62 歳 (1216 年) で亡くなったそうです。方丈の広さは約 3m 四方、今の四畳半ぐらい。テキスト (角川文庫) には、復元された「方丈の庵」のカラー写真が載っています。小さな庵の写真を見ていると、つい昔なつかしくなっていて、私が 4 歳から住んだ物置小屋の話をしてしま

いました。

第二次世界大戦敗戦後、朝鮮から引き揚げて来た我が家族は、父の兄の物置小屋に住むことができました。我が部屋の隣には、一頭の農耕馬が住んでいました。馬一頭といってもそこは、四畳半の倍以上の広さがあったと思います。とはいえ、子供の目と大人の目とでは、見える大きさに違いがあるのでしょう。それを顕著に感じたのは、戦闘機を見た時でした。朝鮮では家の近くに飛行場があったので、時々遊びに行きました。大きなきれいな戦闘機を見上げると、窓にはお兄さんの笑顔が見えました。大人になって見た、特攻基地のあった鹿児島県知覧町に保存展示された一人乗りの戦闘機は、何と小さく、薄っぺらだったことか。

父は動物好きだったので、夕方仕事から帰ると、まず一握りの草を馬に手ずから与えます。そして馬は、ヒヒーンと鳴きます。あ、お父さん帰ってきた。そして、人間も夕食です。私が住んだ部落はほとんどが農家だったので、お米も食べられました。ただし、昼間のおやつは、毎日たくさん蒸かした、さつまいもです。私はなぜか、農家の仕事が好きでした。小学校に入ると、春の田植えの時期には、1週間の農繁休業がありました。その時は稲の苗を運んだり、植えたりします。そこで聞こえる大人たちの会話。「さっちゃん、農家のおよめになるといいよ」だって。まだ小学生だよ。

「生還者たちの声を聴いて テレジン、アウシュヴィッツを伝えた30年」野村路子さん著（早大文学部仏文科卒）の本を、友人が送ってくれました。テレジンからアウシュヴィッツにいつ送られるかわからない、当時のユダヤ人達の恐怖を生還者が今、また思い起こして当時を伝えることは、とてもつらいことでしょう。野村さんは「知る勇氣、伝える努力」とメッセージを送っています。私の父は、戦争中の体験を何も話してくれませんでした。夏休みの自由研究のために、汽車に乗って「豊間の灯台」（塩屋の岬）に連れて行ってくれたりしてもです。そして私には、父に聞いてみる知恵がありませんでした。少しずつ古い話をしてくれたのは、母でした。父は、福島県沿岸に打ち寄せた大津波で職を失い、満洲（中国）に渡って満洲鉄道で働きました。何も話してくれなかったのは、日本が犯した過去の歴史（満洲事変、満洲国の支配、それに伴う鉄道会社経営と地域開発等）のもとに、自分も働いた罪悪感でつらかったからかもしれません。

第二次世界大戦で、私の夫の父親も23歳の若さで南方の島で戦死しました。遺骨箱には石ころが一つ、入っていたそうです。私が夫と新宿で出会ったのも、同じ年頃でした。

新聞に「語り部は戦後生まれ」という記事がありました。戦争体験のない世代が戦争の伝承者となる取り組みが、全国の資料館などでも進んでいるそうです。また、「婦人通信」（日本婦人団体連合会発行）に、平和学研究の中村久司先生による記事、「毎年4回、戦争を振り返る英国」がありました。第一次世界大戦以降の戦争に関わる式典を、年4回行う目的は、参戦に進んだ歴史を検証し、論じ続けて、歴史の汚点を風化させないためだそうです。

日本でも、平和とは何かを共に考えつつ、戦争の時代を少し経験した私にとっては、平和憲法九条を守り通すことを祈ります。

<編集後記>

16歳で自動二輪車の免許をとり、霧ヶ峰のビーナスラインでハコスカやケンメリを粋がって追いかけた時から何年が経過したのだろうか。免許更新は、鮫洲、府中、石神井警察署、朝霞警察署を経験し、今回は大手町の神田免許センターを選んだ。8時30分開場に間に合うように東久留米を出た。今日は緊急事態宣言発令の2日目、月曜日である。平日時間帯、少しは空いてるかと思いきや練馬からお茶の水間は大変な混雑であった。これではいくら飲み屋営業を規制したとしても感染者減少は望めないと思った。免許更新はスムーズに進んだ。視力検査もバッチリ。講習も30分くらいで終わり、講習会場で新しい免許証をもらった。次は5年先、返納しなくていいように健康に留意しようと心に誓った。

（有賀千歳）

編集委員：有賀 千歳（今回の担当）、片平 るみ 小山田 朋樹 黒坂 斉